

▼小学校一日体験入学での交通安全教室



吹く冬も、強い雨の日も子どもたちは登校します。負けてはいられない、と柳崎さん。「朝早くても、子どもたちは笑顔で元氣よくあいさつをしてくれます。そんな姿を見ると、立っていて苦になることはありませんねえ」そう話す表情は、優しさに満ちています。

4年ほど前から、柳崎さんが申し出て、川下小学

私たちの町には、早朝、黄色い服と帽子を身にまとったおじさんたちが街頭に立ち、登校する子どもたちを優しく見守る風景があります。車通りの多い場所や死角などで、旗を振りながら誘導してくれるおじさんたちに、子どもたちもどこか安心そう。

町の安全を守る黄色いおじさんの一人、柳崎さんは交通安全協会の川下分

会長として川下地区の街路に立ちます。また川下地区社会福祉協議会の交通安全活動の一環としても、毎月初め・月半ばには子どもたちの登校の時間帯に合わせて交通指導を行っています。それぞれの理事の皆さんが協力し合いながら、この町では30年も前からずっと続いている光景です。

校の一日体験入学で新一年生を対象にした交通安全教室のお手伝いを始めました。そこには、交通ルールが身近にある環境に飛び込む子どもたちに、正しい横断歩道の渡り方などはもちろん、事故の怖さや危険性を伝えることで、自分の身を守ることの大切さを知ってもらいたいという柳崎さんたちの願いがあります。どうしたら事故のない町になるか。比較的、事故に巻き込まれることの多い子どもや高齢者に交通安全の意識を持つってもらうことが、自分たちにできることの一つだと言います。

「当たり前のことですが、歩行者が気を付けるだけでは事故はなくなりません。車のスピードの出し過ぎが要因となつて起こる痛ましい事故がたくさんあります。ドライバーは急いで運転せず、余裕を持って、歩行者をよく見届けてください」お互いがお互いを思いやる、事故ゼロの町を目指して…。



▲街路に立って子どもたちの安全を守る



▲交通安全週間には地域にのぼりを立てて啓発



事故ゼロの町を目指して

町を目指して

Vol.62

柳崎 正さん
(旭町在住)

岩国市交通安全協会川下分会長・川下地区社会福祉協議会交通防犯対策部会長として、地域の交通安全啓発に努めている。

